

かごしま近代化産業遺産 協働行動計画



かごしま近代化産業遺産パートナーシップ会議

目 次

1章 協働行動計画とは

- 1. 策定の目的・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 2
- 2. 計画の位置づけ・・・・・・・・・・・・・・・・ 3

2章 かがしま近代化産業遺産の概要

- 1. 「明治日本の産業革命遺産 九州・山口と関連地域」
の概要・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 5
- 2. かがしまの遺産とその価値・・・・・・・・ 8

3章 取組の方向性

- 1. 目指す地域の姿・・・・・・・・・・・・・・・・ 12
- 2. 役割分担・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 14
- 3. 現状と課題、取組の方向性
 - (1)学習・普及啓発（まなんど！）・・・・・・ 16
 - (2)保存管理・調査研究（まもっど！）・・・・ 18
 - (3)受入体制整備（むかゆっど！）・・・・・・ 20
 - (4)活用・地域活性化（もりあぐっど！）・・・・ 22
 - (5)情報発信（つたゆっど！）・・・・・・ 24
- 4. 地区ごとの現状と課題、取組の方向性
 - (1)磯地区・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 26
 - (2)寺山地区・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 28
 - (3)関吉地区・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 30
 - (4)広域・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 32

4章 計画の推進体制の将来像

- 1. かがしま近代化産業遺産パートナーシップ会議の
今後の役割・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 35
- 2. かがしま近代化産業遺産パートナーシップ会議の
体制イメージ・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 36
- （参考）助成事業向けの資金調達（例）・・・・ 38

- 〔附属資料〕 行動リスト・・・・・・・・・・・・・・・・ 40
- （参考）ワーキンググループなどで出されたアイ
ディア例・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 50

資料編

- 計画の策定経過・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 54
- 会議風景・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 55
- 試行イベント・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 56
- かがしま近代化産業遺産パートナーシップ会議会則・・・・ 58
- 策定メンバー・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 59

1章

協働行動計画とは



1. 策定の目的

策定の目的

この計画は、世界文化遺産登録を目指す旧集成館、寺山炭窯跡、関吉の疎水溝を中心とする鹿児島県の近代化産業遺産を、市民やNPO、事業者、行政などの様々な立場の人々が協力して保存・活用し、県内外にその魅力を伝えつつ将来へ引き継いでいくために策定するものです。

この計画を基に、それぞれの立場で様々な考えを持つ人々が、適切に連携し、より効果的に行動していくことが期待されます。近代化産業遺産の保存・活用を通じた鹿児島の活性化を目指し、この計画をみんなで実行していきましょう。



- ▶ 計画を基にみんなで連携！
- ▶ 歴史を学び、守り、伝える！
- ▶ 近代化産業遺産を活用して鹿児島を活性化！

かごしまの近代化産業遺産

「明治日本の産業革命遺産 九州・山口と関連地域」の構成資産 (世界文化遺産候補)





2. 計画の位置づけ

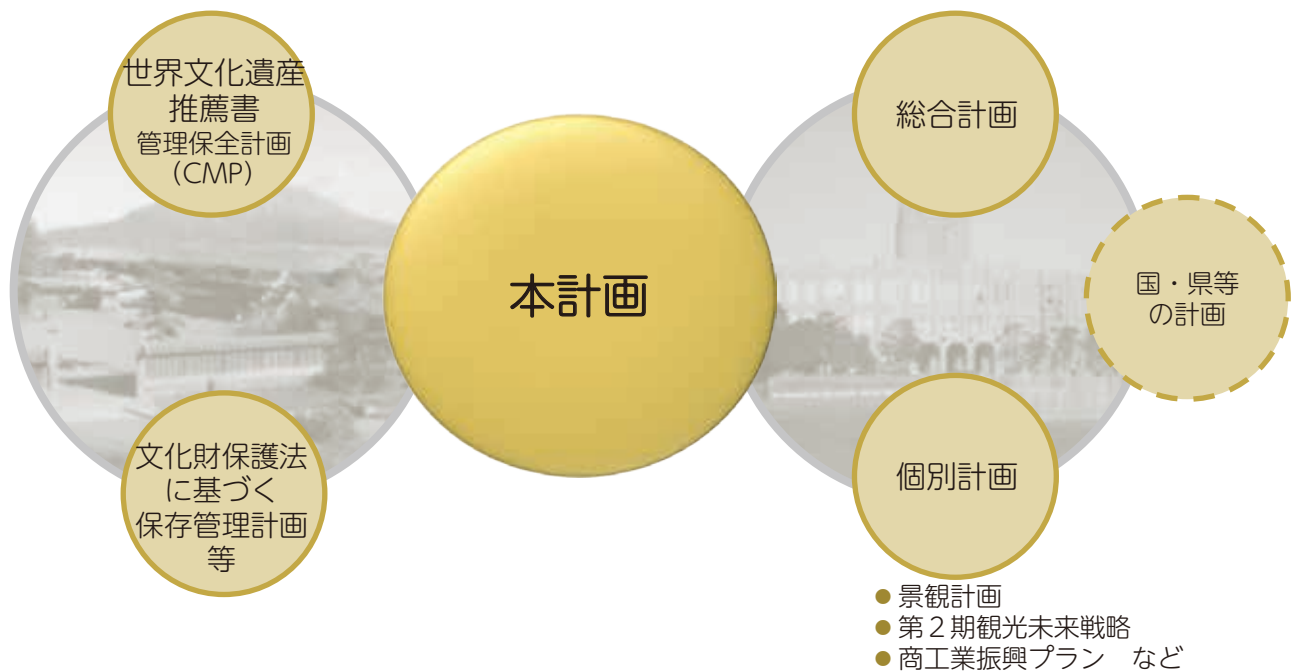
計画の位置づけ

この計画は市民との協働により作成されたもので、世界文化遺産の推薦書・管理保全計画や文化財保護法に基づく計画などを踏まえながら、市民やNPO、事業者、行政などの多様な主体の連携による近代化産業遺産の保存・活用に関する取組について、体系的に整理したものです。

計画の推進にあたっては、近代化産業遺産を生かしたまちづくりを進めるため、総合計画や他の関連する個別計画などとの連携を図ります。



- ▶ 行政計画ではなく、多様な主体の連携による取組を整理した計画
- ▶ 他の計画との連携（世界文化遺産推薦書・管理保全計画、文化財保護法に基づく計画、総合計画や関連する個別計画など）



2章

かごしま近代化産業遺産の概要



1. 「明治日本の産業革命遺産 九州・山口と関連地域」の概要

「明治日本の産業革命遺産 九州・山口と関連地域」とは？

明治期の日本が非西洋地域で最初に産業国家としての地位を確立したことは、世界の歴史から見ても特筆すべきことです。造船、製鉄・鉄鋼、石炭産業といった分野において、当時の日本は西洋から積極的に技術を導入すると同時に、日本の在来技術を応用することによって急速な産業化に成功しました。鹿児島その他、岩手、静岡、山口、福岡、佐賀、長崎、熊本の本の8県11市にまたがる遺産群は、このような日本の産業化の過程を証言する貴重な産業遺産です。



- 非西洋地域で他に先駆けて産業国家としての地位を確立！
- 単に西洋の技術を受け入れるだけでなく、日本の在来技術を応用！
- 日本の「ものづくり」の出発点！





Q 世界遺産ってそもそも何？

A 国境を越えて人類が共有し、次の世代に受け継いでいくべき価値を持つ遺産のことです。平成26年3月現在、ユネスコ（国際連合教育科学文化機関）のもとで、981件が登録されています。日本では屋久島、富士山、原爆ドームなどがあり、また世界ではエジプトのピラミッドやインドのタージ・マハル、ペルーのマチュピチュなどがあります。

Q 日本の産業化って、世界史的に見て何がすごかったの？

A 1800年代後半に、イギリスなどの西洋の国がアジア（中国など）を植民地化していました。これを知った日本は「大変だ！」と思い、国を守るために、強い鉄の造り方などを西洋の文献をもとに、日本が持っていた伝統的な技術を組み合わせて、試行錯誤を繰り返しました。このときの技術交流や経験が造船、製鉄・鉄鋼、石炭産業などの様々な産業を興すことにつながっていきました。集成館事業などから始まった取組は、その後急速に発展し、1900年代初期には長崎で性能の高い蒸気船を自力で造るところまでいきました。これほど急速に重工業が発展した国は他になく、世界の歴史の中でも特筆すべき出来事なのです。

Q 「明治日本の産業革命遺産 九州・山口と関連地域」は どうして世界遺産への登録を目指しているの？

A 今回登録を目指しているのは、非西洋地域で初めて、しかも驚くべきスピードで成し遂げられた日本の産業化の様子を今に伝える遺産です。そのような貴重な遺産を保存して未来に引き継いだり、その価値をいろいろな人に知ってもらうために、世界遺産に登録して保護していくことを目指しています。

Q 「明治日本の産業革命遺産 九州・山口と関連地域」は どうして日本各地に散らばっているの？

A 江戸時代から明治時代にかけて、西洋に追いつこうとして技術を導入し産業を育成しようとした人々は日本各地にいました。今回世界遺産への登録を目指す各遺産は、全体としてそのような人々の活動を後世に伝えるものとして非常に重要です。日本中に散らばっている様々な遺産を重工業分野の「近代化産業遺産」というテーマでひとまとめにして世界遺産として登録しようとするものです。

造船、製鉄・鉄鋼、石炭産業…「明治日本の産業革命遺産 九州・山口と関連地域」の特徴

江戸末期から明治初期にかけてのこれらの産業遺産群は、日本の産業化にあたって大きな役割を果たしています。江戸末期に創設された日本最初の「洋式工場群」である集成館をはじめ、各藩において西洋の技術を導入した反射炉などの様々な産業設備が造られました。その後、明治に入り、製鉄・鉄鋼では官営の八幡製鐵所の建設、造船では長崎における造船所の建設、また高島炭鉱・三池炭鉱の開発といった形で日本の産業化は急速に進んでいきました。

世界的に見ても注目し値する明治日本の急速な産業化。その過程を生き生きと物語る各遺産は、まさに世界に誇れる「普遍的価値」を持つといえるでしょう。



- ▶ 日本の産業化は江戸末期にはじまる！
- ▶ 日本各地に散在する遺産をまとめる「明治日本の産業革命遺産 九州・山口と関連地域」
- ▶ 造船、製鉄・鉄鋼、石炭産業・・・殖産興業を担った基幹産業

	初期・発展期 (1850年～)	産業形成期 (～1910年)
造船	 恵美須ヶ鼻造船所跡 (萩市)  小菅修船場跡 その他 (長崎市)	長崎造船所 (長崎市)
	 三重津海軍所跡 (佐賀市)	
	 旧集成館 (鹿児島市)	
製鉄・鉄鋼	 萩反射炉 (萩市)  橋野高炉跡 及び関連遺跡 (釜石市)	 八幡製鐵所 (北九州市) <small>新日鐵住金(株)八幡製鐵所 ※非公開施設</small>
	 葦山反射炉 (伊豆の国市)	
石炭産業	 高島炭坑 (長崎市)	 三池炭鉱 [宮原坑] (大牟田市) [万田坑] (荒尾市) [専用鉄道敷跡] (荒尾市～大牟田市)
	 端島炭坑 (長崎市)	
	 三角西(旧)港 (宇城市)	 三池港 (大牟田市) <small>大牟田市提供</small>

※主な構成資産を掲載



2. かごしまの遺産とその価値

薩摩藩の近代化への取組とかごしまの近代化産業遺産

江戸末期、琉球貿易を行っていたこともあり、海外に開かれていた薩摩藩は西洋からの産業技術の導入にいち早く着手していました。西洋の文明・文化に敏感であった藩主・島津斉彬は、アヘン戦争を契機として西洋列強に対抗するための富国強兵・殖産興業の必要性を強く認識し、集成館事業を開始しました。反射炉、高炉、ガラス工場、蒸気機関を備えた集成館は、近世日本における近代化のはじまりでした。

斉彬の死後、一時停滞した集成館事業でしたが、薩英戦争で英国の軍事力を目の当たりにした島津久光は近代化の必要性を再認識します。砲火を交えたイギリスと和睦した後、同国から機械の輸入や技師の招聘を行い、集成館事業の再興を図ったのです。

鹿児島における世界遺産構成資産は、このような薩摩藩の近代化への取組を雄弁に物語る数少ない貴重な産業遺産です。

ポイント

- ▶ 様々な産業分野で近代化のさきがけとなった集成館事業
- ▶ 島津斉彬の先見の明
- ▶ イギリスとの協力

Q 集成館事業では何が行われていたの？

A 1851年に始まった集成館事業では、磯地区を中心として、鉄製の大型砲を造るための高炉や反射炉、布や糸を作る紡績工場、ガラス工場などが造られました。それらを動かすための水力（関吉の疎水溝）や火力（寺山炭窯）も整備されており、まさに日本初の「工場群」としての機能を持っていたのです。集成館事業では船や大砲などの武器だけでなく、薩摩切子、薩摩焼、電信機、ガス灯、布、糸といった様々なものが生産されていました。今回の世界文化遺産登録にあたっては、集成館事業を現代に伝える遺産のうち、建造物や遺構等が現在も残っている、重要なものが構成資産となっています。



造船（洋式軍艦「昇平丸」模型）



薩摩切子



ガス灯を点した鶴灯籠



大砲



耐火レンガ

かごしまの近代化産業遺産の概要

鹿児島市において世界遺産登録を目指している「旧集成館」は、江戸末期に始まる薩摩藩の西洋技術導入の試みであり、日本最初の洋式工場群でした。また、水源に乏しかった磯地区に導水することで水力を供給した「関吉の疎水溝」、火力の元になる白炭を供給した「寺山炭窯」、これらの存在があっはじめて、集成館に設置された様々な産業設備の稼動が可能になったのです。鹿児島市の近代化産業遺産はこれだけではありません。薩英戦争時に大きな役割を果たした各砲台跡や、船の帆布を製造した田上水車館など、世界遺産の構成資産とともに守り語り継いでいくべきものが数多く存在します。



- 動力供給源が組み合わさった日本最初の「洋式工場群」集成館
- 西洋の技術と薩摩の技術の融合
- 砲台跡、田上水車館など・・・鹿児島市に点在する様々な歴史文化遺産

**旧集成館
(反射炉跡等)**



大砲の鑄造を目的として建設された反射炉（1857年に建設された2号炉）の基礎が残っています。かつてはこの上に高さ20mほどの煙突がそびえ立っていました。基礎部は薩摩在来の石組み技術により造られ、非常に精密に組み合わされています。

**旧集成館機械工場
(現・尚古集成館)**




1865年に完成し、日本に現存する近代的工場の建物としては最も古いものです。当時から「ストーンホーム」と呼ばれた洋風建築でしたが、基礎の部分では神社建築にもよくみられる亀腹石の手法も用いられています。オランダ・イギリス製の機械や蒸気機関を用いて船舶装備用の部品等を製造していました。

**旧鹿児島紡績所技師館
(異人館)**



技師館は、1867年に日本で初めて設置された西洋式紡績工場である鹿児島紡績所の技術指導にあたった英国人技師の宿舎として建てられました。この時期の日本における西洋風建築として現存する貴重な建物です。

寺山炭窯跡



1858年、集成館の反射炉などの燃料として用いる白炭を製造するために、斉彬の命令により建設された炭窯の跡です。磯地区に近く白炭に適したシイやカシの多い寺山に造られたとされています。

関吉の疎水溝



集成館において高炉の水車ふいごなどで必要な動力（水力）を得るためのものです。1722年ごろに築かれたものを、斉彬が改修して再利用しました。磯地区には大きな川がなく、背後の吉野大地を流れる稲荷川から水を引いていました。磯まで約7km続き、その緩やかな傾斜角度は江戸時代の高度な技術を証明するものです。現在も一部は水田のかんがい用水路として利用されています。



Q 西洋の技術と薩摩の技術はどう融合していたの？

A 現存する反射炉跡は、二号炉のものです。オランダの書物をもとに建設された一号炉では、炉の中の温度を高温に保つことができないなど、失敗に終わりました。その失敗をばねに、湿気対策などの課題に対し、石橋等に見られる緻密な石組技術や薩摩焼の技術などを応用し、反射炉建設に成功しました。それ以外にも、洋風の石造り工場建築である旧集成館機械工場にも、日本の神社建築に見られる伝統の亀腹石が採用されるなど、西洋の技術情報をもとに、薩摩の技術を応用し、試行錯誤した跡があり、いろいろなところで西洋の技術と薩摩の技術が融合していました。近代化のさきがけであった集成館事業は必ずしも西洋の技術を一方的に受け入れていただけではなく、そこでは薩摩伝統の技術も大きな役割を果たしていたのです。

Q 島津斉彬ってどんな人？

A 薩摩藩の第28代当主です。小さいころに海外の文化に詳しい曾祖父・重豪の影響を受けて育ち、国際的な考えを持っていました。アヘン戦争で中国が負けたのを知った斉彬は「西洋の強国に対抗するためには国力を強化しなければならない！」と考え、集成館事業を開始します。国力を育てるために、軍事だけでなく、ガラス工芸や紡績といった産業にも力を入れ、また教育も重視していました。



島津斉彬肖像

Q 薩摩と西洋はどんな交流をしていたの？

A 集成館事業がはじまったとき、薩摩藩は日本語に訳されたオランダの本を教科書にして西洋の先進技術を学んでいました。1863年にイギリスと戦争をした薩摩藩は、西洋の国力を改めて認識し、産業を育成して西洋に追いつくべく集成館事業を活発化させていきます。イギリスと仲直りしたあとは、イギリス製の機械を輸入したり、西洋の知識を学ぶために留学生を送ったりします。また紡績工場ではイギリス人の技術者が西洋の紡績の技術を日本に伝えていました。

3章

取組の方向性





1. 目指す地域の姿

目指す地域の姿とは

近代化産業遺産を生かした地域活性化の将来像として「目指す地域の姿」を定めます。また、「目指す地域の姿」の実現に向け、「取組の方向性」を5つに分類しています。

目指す地域の姿

➤ 1. 学び、守る ～齊彬公の夢を受け継ぐ～

島津齊彬公が強く豊かな薩摩と日本を目指し集成館事業に取り組み、様々な人々はその志を受け継ぎ、日本の近代化の原動力となったように、子どもから大人まで、近代化産業遺産に触れ、価値を学び、先人の想いに共感し、自分の言葉で後世へと語り、地域が一体となって遺産とその夢を受け継いでいます。

➤ 2. 触れ合い、生かす ～交流のまちを今へ～

かつて、薩摩が海外との南の玄関口として、交流を通して新しい文化や技術を育んできたように、国内外から多くの人々がかごしまを訪れ、近代化の歴史や人と触れ合い、ファンとなるとともに、近代化への歩みを学ぶことが、人材育成やビジネスにつながるなど、「今と未来」に生かされています。

➤ 3. 担い、つながる ～人の和で行動の輪を拡げる～

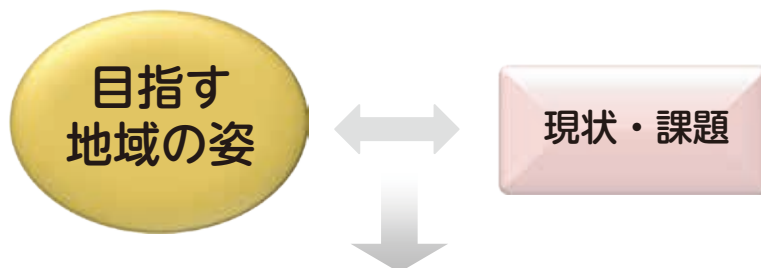
集成館事業が、和と洋のそれぞれの良さの組み合わせや、藩の枠にとらわれない考え・行動により、日本の近代化へとつながったように、多くの個人や団体が、心や力を一つにしなが、近代化産業遺産を核としたまちづくりのために、それぞれの良さや強みを生かした活動を展開し、パートナーシップと行動の輪が、県内外に広がっています。



明治5年の磯地区（尚古集成館蔵）



現在の磯地区



取組の方向性

(1) 学習・普及啓発 (まなんど！)

- 産業遺産に関する学習の充実
- 教職員への支援
- 市民の産業遺産の認知・理解の向上
- さらなる市民の参画

(2) 保存管理 ・調査研究 (まもっど！)

- 産業遺産の保存管理
- 良好な景観の形成
- 産業遺産周辺の環境の保全
- 産業遺産に関する調査研究
- 調査研究の公表
- 研究への市民参加

(3) 受入体制整備 (むかゆっど！)

- 施設・展示の充実
- 来訪者の誘導・案内
- 交通アクセスの改善
- 魅力的な周遊ルートづくり
- 市民との交流促進
- おもてなし
- ガイドの充実と連携

(4) 活用 ・地域活性化 (もりあぐっど！)

- 先人たちの挑戦に学ぶ新たなビジネス開発、
経営・教育面での活用
- 特産品の充実
- 関連イベントの充実

(5) 情報発信 (つたゆっど！)

- 産業遺産についての効果的な情報発信
- 産業遺産を訪れたいくなる双方向の情報発信



2. 役割分担

関係者の役割分担

「目指す地域の姿」の実現に向けた取組を進めていくためには、関係者がそれぞれ担う役割を理解した上で、相互に連携することが必要となります。

ここでは、各主体ごとの主な役割を示します。

☒ 主な役割



市民

かごしまの近代化産業遺産について学び、理解を深めるとともに、遺産周辺の居住者の方々をはじめとして、遺産周辺等の日常的な維持管理、来訪者の受け入れなどに関わる取組の担い手となることが期待されます。さらには、おもてなしの心による来訪者との交流や地域のまちづくり活動への参加などが期待されます。



NPO

市内で活動を行うNPO等の市民団体は、かごしまの近代化産業遺産について学び、理解を深めつつ、それぞれの組織の目的や対象とする地域などに応じて、来訪者の受け入れや情報発信、地域づくり等の担い手となることが期待されます。その際には、他の関係者との連携を図り、効果的な取組となるように配慮しながら、継続的な活動を行っていくことが期待されます。



事業者

市内で活動を行う事業者は、各種活動を実施していく際の事業運営への協力とともに、日々の事業活動のなかでの来訪者の受け入れや、情報発信の担い手となることなどが期待されます。特に、観光に関わる事業者については、かごしまの近代化産業遺産への理解とその魅力を来訪者に伝え、おもてなしの心をもって来訪者を受け入れることが期待されます。



行政

本計画に位置づけられた取組を推進していくため、市民、NPO、事業者の協働を促進させるとともに、遺産の保全や遺産を活用した地域づくりに必要な取組を推進する役割を担います。また、関係する県や市との連携によって、相乗効果が発揮され、一層効果的な取組となるよう、広域的な連携も進めていきます。



3. 現状と課題、取組の方向性

(1) 学習・普及啓発（まなんど！）

※5つの枠組みごとに、現状と課題、取組の基本方針、取組の基本的方向等を示します。



現状と課題

学校教育

- 近代化産業遺産の教材が開発され、小学生等に対して特別授業や遠足等の学習が行われていますが、学校教育の時間は限られているため、授業として行っているケースは少なく、今後全ての学校で学習が行われることが望まれます。
- 教職員向けに近代化産業遺産の研修が行われており、関心の高い教職員が参加しています。
- 体験学習など、教室での学習以外の学習機会も、今後増やしていく必要があります。

市民への普及啓発

- 尚古集成館などの博物館や市民団体を中心として、市民向けのイベントや勉強会、学習講座などが定期的に行われており、近代化産業遺産の理解は進んできています。
- 積極的に研究を行う市民により、地域の歴史本の作成なども行われています。
- 近代化産業遺産について自分の言葉で語れる市民が増えてきていますが、近代化産業遺産を知らない市民も多いことや、関心のある市民のメンバーが固定化していることへの対応が必要です。
- 若者たちが故郷の歴史を生き生きと語れる地域を目指し、若年層の積極的な参画や関心を高めていく必要があります、学校だけでなく家庭でも近代化産業遺産の話ができるよう、保護者の関心を高めることも重要です。
- 関心が高まった市民が、イベント等を開催する立場で活動していくことが望まれます。

取組の方向性



学校教育

- 教室内での学習や体験型学習を通じて、かごしまの子どもたちみんなの近代化産業遺産・先人の想いについての理解を深めます。

市民への普及啓発

- わかりやすい資料・講座等を通じて、すべての市民が近代化産業遺産について知り、関心を高め、多くの人がある価値について自分の言葉で語れることを目指します。
- また関心の高い市民が、新たな活動の担い手となっていく流れを作ります。

表 取組の基本的方向・内容

基本的方向		内 容	具体的な取組・活動（例）
学校教育	①産業遺産に関する学習の充実	産業遺産に関する授業の促進	<ul style="list-style-type: none"> ○授業における副読本「かごしまタイムトラベル」（※）等の活用 ○遺産を活用した教育プログラムの検討 ○教職員向け研修の実施・受講者の拡大
		産業遺産に関する体験型学習の促進	
	②教職員への支援	教職員向けの研修の充実	
		産業遺産に関する補助教材等の充実	
市民への普及啓発	①市民の産業遺産の認知・理解の向上	市民にわかりやすい広報の充実	<ul style="list-style-type: none"> ○県政・市政広報誌、町内会広報誌等を活用した広報 ○産業遺産の視点を取り入れた、まち歩き・勉強会等の開催 ○成人式等での普及啓発
		市民向けのわかりやすい講座等の開催	
		若年層や保護者向けの普及啓発の充実	
	②さらなる市民の参画	新たな活動の担い手の創出	

※「かごしまタイムトラベル」
 鹿児島県が小学5、6年生向けに作成した副読本。集成館事業を中心に、日本の近代化に鹿児島が果たした役割等について分かりやすく説明したもの。





(2) 保存管理・調査研究（まもっど！）

現状と課題

保存管理

- 「集成館」の関連遺産については、所有者等により適切に管理されていますが、寺山炭窯跡や疎水溝（集成館口）など、石組、石垣等の中には一部、破損がみられるほか、遺産を保護するために樹木の伐採等を必要とする箇所があります。
- 遺産については、行政や所有者等が主体となり、文化財保護法に基づく保存管理計画等を策定しており、今後、計画による保存管理を確実に実施していく必要があります。
- 磯地区では、国道10号北バイパスの建設が計画されており、周辺環境や景観を損なうことがないように十分配慮されることが必要です。
- 磯地区では、景観法や鹿児島市景観条例に基づく磯地区景観計画が策定されており、今後、同計画等に基づき、良好な景観形成を図っていく必要があります。
- 世界文化遺産の登録を目指す構成資産候補以外の、近代化産業遺産に関しても、貴重な財産であることから、適切な保存を継続していくことが重要です。
- 遺産周辺では、地域住民による清掃活動が実施されているところもあります。
- 遺産周辺に住宅が立地しているエリアでは、来訪者の増加に伴う住環境の悪化を防止することも必要になります。

調査研究

- 各博物館や大学などにおいて、近代化産業遺産の調査研究が行われていますが、今後も、関係機関が連携を図りながら、文化財の保全を優先しつつ、計画的に調査研究を進めることが必要です。
- 近代化産業遺産に係る調査研究の成果などを、市民に身近に感じてもらえるような仕組みづくりも今後必要となります。
- また、鹿児島において近代化の取組が始まってから現在に至るまでの展開・軌跡について学ぶことも大切です。

取組の方向性

取組の 基本方針

保存管理

- 磯地区等に残る日本最古の洋式工場群「集成館」の遺産は、日本の近代化に大きく貢献した歴史上重要な遺産であり、適切に保存管理を行っていきます。
- また、これらの遺産の文化財としての価値を次世代へ確実に継承していくため、市民の理解を深めながら、官民連携で周辺環境を含めた保全活動を行っていきます。

調査研究

- 近代化産業遺産について、関係機関との連携による計画的な調査研究を行い、研究結果のわかりやすい公表等に努めます。

表 取組の基本的方向・内容

基本的方向	内 容	具体的な取組・活動（例）	
保存管理	①産業遺産の保存管理	<ul style="list-style-type: none"> ○地域住民との連携による遺産の観察・保存 ○魅力ある景観形成に関する市民活動への支援 ○地域住民、市民団体等による清掃・美化作業 	
	遺産の保存管理		
	保存管理に関する助言・協力		
②良好な景観の形成	磯地区景観計画に基づく景観形成		
③産業遺産周辺の環境の保全	清掃・美化活動等の実施	○地域住民、市民団体等による清掃・美化作業	
	来訪者へのマナーの周知		
調査研究	①産業遺産に関する調査研究	<ul style="list-style-type: none"> ○博物館等による解説図録等の作成 ○市民団体が作成するご当地本等による紹介 ○発掘調査時の市民向け現地説明会の開催 	
	産業遺産の官民連携による研究		
	②調査研究の公表		研究の紹介・情報共有
			成果の展示等の充実
	③研究への市民参加		非公開資産の公開
			市民による研究本の作成
発掘調査等の現地説明会等の充実			





(3) 受入体制整備（むかゆっど！）

現状と課題

受入環境の充実

- 各博物館における近代化産業遺産の展示は既に実施されていますが、近代化産業遺産の価値をより理解してもらうためには、その歴史的・文化的背景や資産のつながりをわかりやすく伝えることが大切であり、今後更なる理解を広げる仕組み・仕掛けを継続的に行っていくことが必要となります。
- 安全な歩行空間の確保や、誘導標識・説明板の設置・休憩施設など、外国人観光客も含め、周遊しやすい環境づくりを進めることも必要です。
- 磯地区では、観光シーズン等のピーク時に駐車場の不足が見られますが、地形的な制約から駐車場の拡大は難しいことから、自家用車による来訪を抑制し、混雑を軽減するための対策が求められています。

来訪者への対応

- 民間企業・行政・市民団体を中心として来訪者向けの近代化産業遺産に関するまち歩きツアーなどが行われています。
- 今後、磯・寺山・関吉地区を周遊する方法や、特に鹿児島中央駅・鹿児島駅から近代化産業遺産のある地域に人を呼び込む仕掛け、多様な手段によるアクセスなども考えていく必要があります。
- 来訪者が市民と触れ合う機会は、現状ではガイドにほぼ限られていますが、今後は休憩所等での市民との交流の場づくりなどが求められています。
- 近隣の店舗、タクシーやバス、ホテル等の事業者はもとより、街の人々にも、おもてなしの心をもって来訪者を受け入れてもらう準備が必要です。
- ガイドに関しては個々の育成が始まっていますが、今後の来訪者の増加や外国人観光客への対応など、さらなる充実や各団体の連携が求められます。

取組の方向性

取組の 基本方針

受入環境の充実

- 近代化産業遺産への理解をより一層深める展示などを行い、「また来たくなる」環境づくりによって、かごしまのファンを増やします。
- 来訪者を適切に誘導し、安全かつ快適な公開を実現するため、誘導標識・説明板の整備や駐車スペースの確保を進めます。

来訪者への対応

- 現状の周遊ルートに加え、海上からの観覧、市民との交流の場づくりなど、魅力的な周遊ルートや仕掛けを検討し、来訪者に対して提示していきます。
- 同時にガイドの担い手の拡大や質の確保、各団体の連携を図るとともに、おもてなし人材の育成に取り組んでいきます。

表 取組の基本的方向・内容

基本的方向	内 容	具体的な取組・活動（例）	
受入環境の充実	①施設・展示の充実	産業遺産の理解を深める展示の充実	<ul style="list-style-type: none"> ○観光施設・案内所、駅等での案内・誘導 ○構成資産へ誘導するための標識や価値等をわかりやすく解説した説明板の整備 ○駐車スペースの確保の検討（寺山、関吉地区）
		施設的环境整備	
	②来訪者の誘導・案内	産業遺産を紹介する案内機能の充実	
		わかりやすい誘導標識・説明板等の整備	
		駐車スペースの確保・便益施設の充実	
		歩行環境の改善	
	③交通アクセスの改善	関連施設との連携	
		磯地区への自動車流入の抑制	
		周遊バス等の公共交通アクセスの向上	
	来訪者への対応	①魅力的な周遊ルートづくり	
磯、寺山、関吉地区の周遊ルートづくり			
鹿兒島中央駅～鹿兒島駅～磯地区の回遊性の向上			
鹿兒島の他の魅力の活用			
県外の関連資産との連携			
②市民との交流促進		新たな手段（海など）による周遊ツアーづくり	
		来訪者と市民との交流の場づくり	
		「おもてなし」に関する勉強会等の開催	
③おもてなし		外国人観光客への対応	
		新たなガイドの育成やガイド内容の向上	
	各ガイドの連携		
④ガイドの充実と連携	外国人観光客への対応		
	各ガイドの連携		
	ガイド育成講座の開催やガイド団体間の連携・役割分担		



(4) 活用・地域活性化（もりあぐっど！）

現状と課題

- 集成館事業は、薩摩の技術と西洋技術を融合し、近代化を推し進めた先人たちの挑戦を示す事例です。
- 現代においても、その挑戦に学び、新たな試みを模索することは大切です。
- 技術的な知見だけでなく、人材育成や経営面での知見を、ビジネスに活かしていくことも今後望まれます。
- 来訪者向けのグッズ・土産物の充実やそれらの購入を促す仕組みづくりも重要です。
- 幅広く人々を呼び込み、継続的に来訪してもらうためには、他のイベントとの連携した取組も求められています。

取組の方向性



- ▶ 近代化産業遺産を過去のものとして捉えるだけでなく、豊富な人材を輩出した教育システム、それを実現した先人の想い・知見を応用し、ビジネスでも新たな動きを起こします。
- ▶ 産業遺産をテーマにした商品など、鹿児島ならではの魅力ある特産品の開発や販売の強化に取り組むとともに、他の事業などと連携した取組を進めます。

表 取組の基本的方向・内容

基本的方向	内容	具体的な取組・活動（例）
①先人たちの挑戦に学ぶ新たなビジネス開発、経営・教育面での活用	集成館事業における挑戦・視点等を現代のビジネスに生かす取組	○集成館事業をビジネスの視点で捉えた研究
	集成館事業の経営手法等の、現代の企業経営への活用を研究	
②特産品の充実	産業遺産をテーマとした商品開発	○産業遺産のストーリーを題材にした商品やメニュー等の開発
	地元土産品や土産品の魅力向上	
③関連イベントの充実	遺産に関するイベントの開催	○産業遺産を活用したイベントの開催
	歴史や文化等の関連する事業や、遺産のエリア周辺で行われる各種イベントと連携した取組	





(5) 情報発信（つたゆっど！）

現状と課題

- 各博物館では、所有する近代化産業遺産に関して、パンフレットやWEBページを通して独自に情報発信を行っています。
- 行政のWEBページなどでも近代化産業遺産についての紹介を行っていますが、今後は遺産の価値やつながりをよりわかりやすく解説したり、世界文化遺産登録に向けた取組の状況を適時に発信していくことが求められています。
- また、情報の発信方法は一方向のものが多く、双方向での情報発信は十分とは言えません。
- 他地域の世界文化遺産候補となっている近代化産業遺産と連携した情報発信も今後さらに必要となります。
- 今後は、鹿児島域外の人を対象とした情報発信の拡大や、新しい情報発信の手法、内容を模索していくことも必要です。

取組の方向性



- 一方向及び双方向の効果的な情報発信を通じて、近代化産業遺産が鹿児島にあることやその価値を多くの人々が知り、実際にかごしまの近代化産業遺産を訪れることを目指します。

表 取組の基本的方向・内容

基本的方向	内容	具体的な取組・活動（例）
①産業遺産についての効果的な情報発信	産業遺産に関する情報サイトの充実	<ul style="list-style-type: none"> ○ホームページ、フェイスブック、ブログ、ユーチューブ等を活用した旬な情報の総合的な発信 ○「明治日本の産業革命遺産 九州・山口と関連地域」を構成する8県・11市の地方公共団体や市民団体と連携したプロモーション活動
	多様な情報発信ツールの活用	
	観光プロモーションの推進	
	市外、県外の産業遺産と連携した情報発信	
②産業遺産を訪れたいくなる双方向の情報発信	市民、来訪者が情報発信者となるような仕組みの構築	○県外各地で行う観光PRを通じた情報発信



4. 地区ごとの現状と課題、取組の方向性

(1) 磯地区



現状と課題

- 磯地区においては、これまでも多くの観光者が来訪していますが、駐車場の不足、国道10号などにおける慢性的な渋滞の発生、歩道が狭い、尚古集成館と異人館の間の歩行空間が十分でないなど、世界文化遺産登録を契機とした来訪者の増加に対応した安全の確保、交通機能の拡充が求められています。
- 海水浴場も隣接しており、来訪者が多い地域であるため、マナーの周知など、地域の良好な住環境を確保していくことが必要であり、防犯パトロールなどの従来の取組を今まで以上に推進していくことが求められます。
- 今後は来訪者の増加に対応しつつ、海からの眺望、当時の風景に配慮した保全にも配慮しながら、当時の背景や技術、意義をはじめとした歴史の理解を深めていくことが重要です。
- 尚古集成館、異人館、磯工芸館等の遺産の説明の充実、相互に歩いて回れる案内板の充実等も必要です。

取組の方向性

保存管理・調査研究

- 景観形成
 - 磯地区景観計画を踏まえて、地区内の景観誘導を図るとともに、道路附属施設等のデザインへの配慮等を行います。
- 住環境の確保
 - 来訪者の増加に対応して、地域住民以外の参加も含めて、清掃活動等の充実を図り、地域の良好な住環境を確保していきます。

受入体制整備

- 誘導標識等の整備
 - 磯地区への車での来訪者に分かりやすい道路案内標識を整備します。
 - 磯地区内を徒歩で回る方に分かりやすい尚古集成館～異人館、磯海岸等の案内標識の整備やまち歩きマップ等の作成を行います。
- 説明板の設置
 - 各遺産を説明する説明板の設置、世界遺産登録にあわせた内容の更新を行います。
 - ストーリー性のある説明やITの活用などにより、訪問者が楽しみながら周遊できるような仕組みを検討します。
- 交通アクセスの充実
 - 駐車スペースを地区内に新たに確保することは地形的な制約から難しいため、自家用車による来訪を抑制していくとともに、来訪者の増加に対応した交通アクセスの充実を図ります。
 - 道路を整備する際には、利用者の安全性と快適性を確保しつつ、周辺のまちなみや自然景観との調和に配慮するものとします。

☒ 磯地区





(2) 寺山地区

現状と課題

- 炭窯跡の所在する寺山地区には、青少年の教育施設である鹿児島市立少年自然の家や多目的広場等を備える寺山ふれあい公園などがあります。また、地区内の自然遊歩道は、散策路として活用されています。
- 一方、これまで観光での来訪者は限られており、世界文化遺産登録を契機とした来訪者の増加に対応した機能の確保が必要となります。
- 今後は来訪者の増加に対応しつつ、緑豊かな自然環境を保全しながら、当時の技術やその意図をはじめとした歴史の理解を深めていくことが求められます。

取組の方向性

保存管理・調査研究

- 寺山炭窯跡の維持管理
 - 町内会等による草払いなど、地域と行政が連携しながら、適切な維持管理を行っていきます。

受入体制整備

- 誘導標識等の整備
 - 寺山地区への車での来訪者に分かりやすい道路案内標識を整備します。
 - 駐車場から炭窯跡までの分かりやすい案内標識を整備します。
- 説明板の設置
 - 炭窯跡を説明する説明板の設置、世界文化遺産登録にあわせた内容の更新を行います。
- 多様な交通手段の確保
 - 観光バス、自家用車の増加が見込まれることから、駐車スペース等を確保し、案内誘導の充実を図ります。

寺山地区





(3) 関吉地区

現状と課題

- 関吉の疎水溝は現在も一部がかんがい用水として利用され、地域住民による維持管理が行われています。
- 一方、これまで観光での来訪者は限られており、世界文化遺産登録を契機とした来訪者の増加に対応した機能の確保が必要となります。
- 今後は来訪者の増加に対応しつつ、水と緑豊かな自然環境を保全しながら、当時の技術やその意図をはじめとした歴史の理解を深めていくことが求められます。

取組の方向性

保存管理・調査研究

- 疎水溝の維持管理
 - 水路周辺は町内会等が自主的に落ち葉の清掃等を行っており、行政とも連携しながら、適切な維持管理を行っていきます。

受入体制整備

- 誘導標識等の整備
 - 車での来訪者に分かりやすい道路案内標識を整備します。
 - 県道から疎水溝への徒歩での移動を想定した案内標識を設置します。
- 説明板の設置
 - 疎水溝周辺には、世界文化遺産登録にあわせた内容の説明板を整備します。
- 見学会の開催
 - 水路と河川の間は農道は道幅が狭いため、市主催の見学会等では、来訪者の安全に配慮した誘導を図ります。
- 駐車場や休憩施設の確保
 - 本地区には駐車場やトイレ等がないため、駐車スペースやトイレの確保等を行っていきます。

関吉地区





(4) 広域

現状と課題

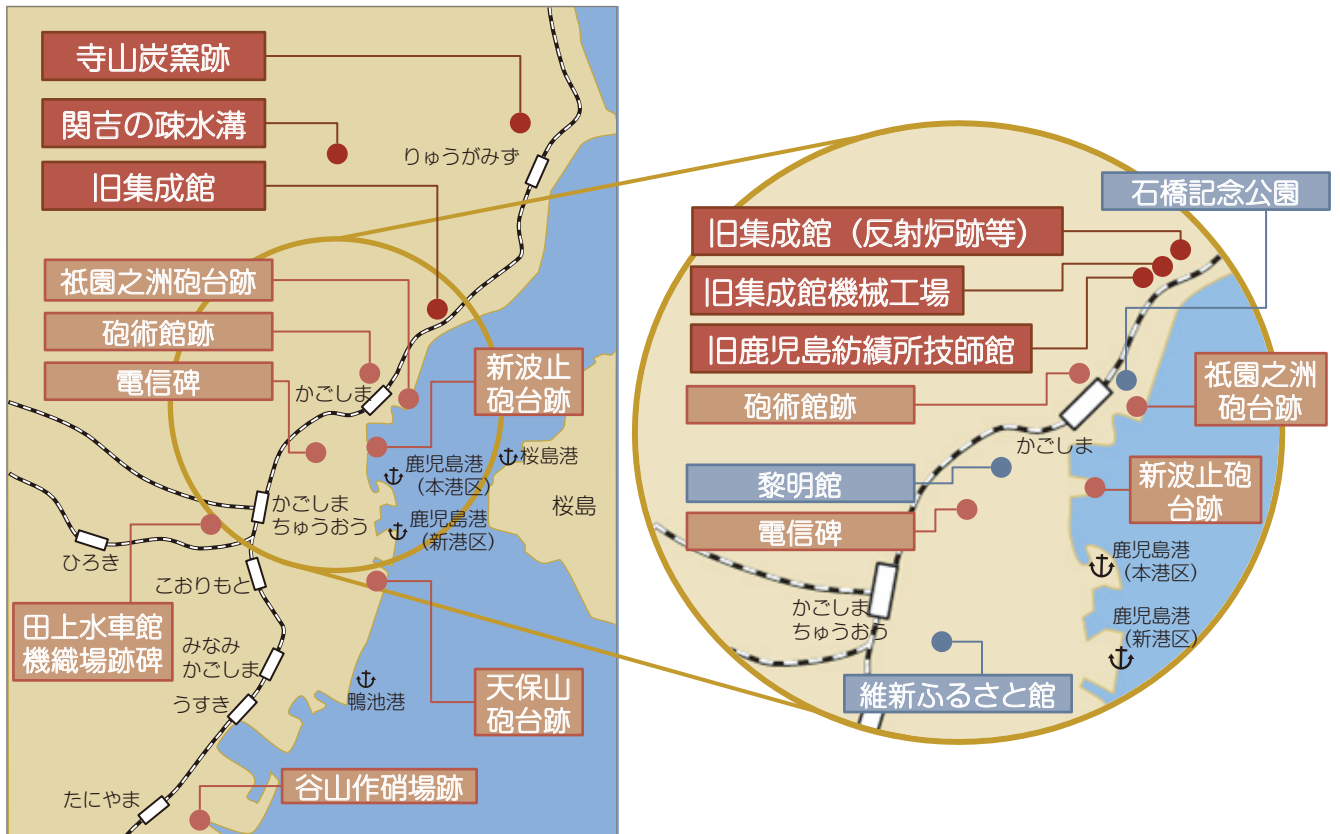
- 遺産周辺だけでなく、来訪者の玄関となる鹿児島中央駅・鹿児島駅から各地区へのルートにおいて、誘導標識・説明板の設置・休憩施設など、外国人も含め、周遊しやすい環境づくりを進める必要があります。
- 今後、磯・寺山・関吉地区を周遊する方法や、特に鹿児島中央駅・鹿児島駅から近代化産業遺産のある地域に人を呼び込む仕掛け、多様な手段によるアクセスなども考えていく必要があります。
- 鹿児島駅周辺をはじめ市内の中心市街地との相乗効果を目指して、回遊性の向上、市民との交流の場づくりなどが求められています。
- 近隣の店舗、タクシーやバス、ホテル等の事業者だけでなく、街の人々にも、おもてなしの心をもって来訪者を受け入れてもらう準備が必要です。

取組の方向性

受入体制整備

- 周遊ルートづくり
 - 磯・寺山・関吉の周遊ルートの構築、鹿児島中央駅・鹿児島駅から近代化産業遺産のある地域に人を呼び込む仕掛けづくりを地域住民、NPO、事業者などと連携して進めます。
- 交通アクセスの充実
 - 現在検討が進められている鹿児島駅周辺での駐車場整備とあわせてバスへの乗り換えによる磯地区へのアクセスの向上等、来訪者の増加に対応した交通アクセスの充実を図ります。
- 交流の場づくり
 - 鹿児島中央駅から鹿児島駅間のエリアと連携し、遺産への来訪と市街地での交流、賑わいづくりの相乗効果を高めていきます。
- 人材育成
 - 近隣の店舗、タクシーやバス、ホテル等の事業者だけでなく、市内、県内の街の人々への研修などを通じて、おもてなしの心による来訪者への対応を進めます。
 - 今後の来訪者の増加や外国人観光客への対応を踏まえたガイドの育成、更なる充実や各団体の連携強化を図ります。
- 鹿児島の他の資産や県外の関連資産との連携
 - 磯、寺山、関吉地区だけでなく、市内の関連資産や桜島ジオパーク、県内の歴史文化資産、県外の関連資産と連携したツアーづくり、情報発信などを進め、回遊性を高めていきます。
 - 世界文化遺産登録を目指している構成資産以外の関連する文化財も含め、近代化産業遺産を活用した観光や地域づくりを進めます。

図 広域図



4章

計画の推進体制の将来像



1. かがしま近代化産業遺産パートナーシップ会議の今後の役割

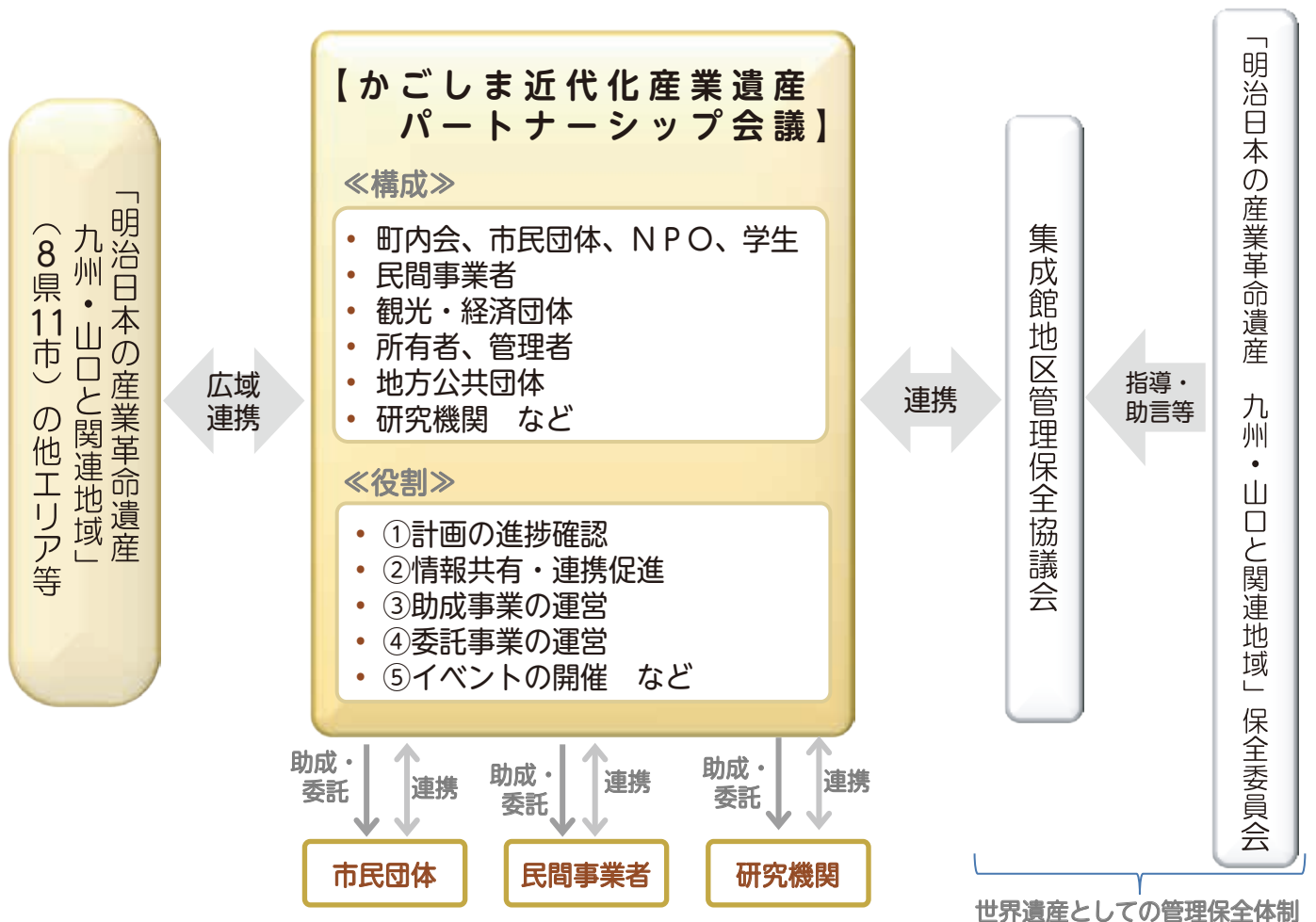
本行動計画の推進にあたっては、市民や市民団体、NPO、民間事業者*、所有者、研究機関*、行政などが、連携しながら一体となって取り組むことが大切です。

今後、「かがしま近代化産業遺産パートナーシップ会議」は、行動計画を推進するために以下の役割を担うことが期待されます。

※ 民間事業者とはインフラ事業者や商店街、研究機関とは大学などを想定

- ①計画の進捗確認
 - 関連する団体の活動計画と進捗状況を会議で共有します
- ②情報共有・連携促進
 - 特に課題となっている事例について情報を共有し、解決策を共に考えます
- ③助成事業の運営
 - 市民の活動へ助成を行います
- ④委託事業の運営
 - 民間事業者に対して、広報などの事業を委託して実施します
- ⑤イベントの開催

☒ 行動計画を推進するための全体体制





2. かがしま近代化産業遺産パートナーシップ会議の体制イメージ

「かがしま近代化産業遺産パートナーシップ会議」は、関係者で意思決定を行う総会とこれに基づいて事業等を推進する企画運営委員会及び支援する事務局で構成することが考えられます。

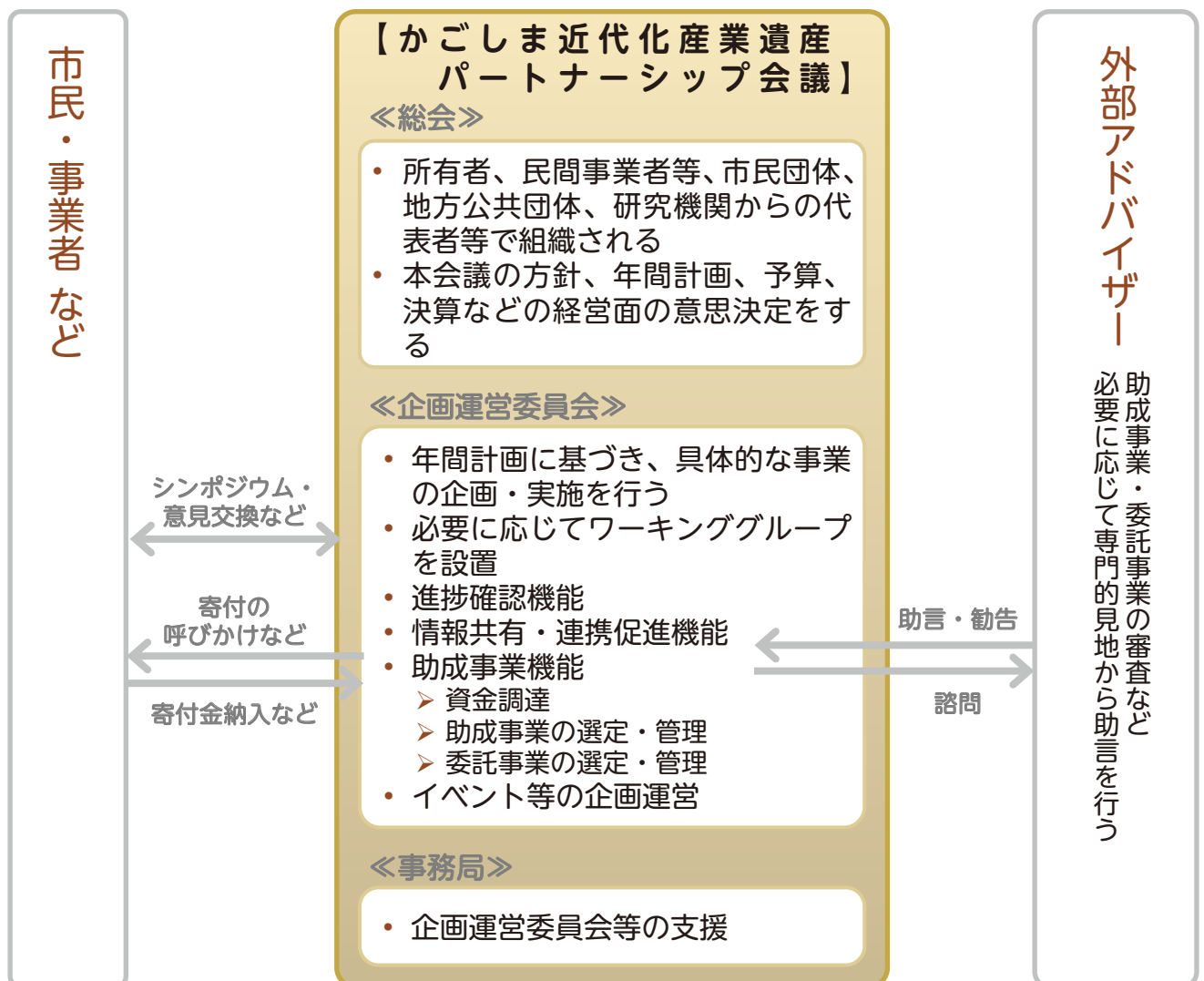
総会は、方針や予算の決議を行い、関連する諸団体の代表者で組織されることが望ましいと思われます。

一方、会議の開催や資金調達、助成・委託事業の手続き等、業務も発生するため、企画運営委員会、さらに委員会を支援する事務局も不可欠であると思われます。

これとは別に、助成・委託事業を選ぶときに専門的な知見をもつ第三者（外部アドバイザー）からアドバイスをもらうことが有効と考えられます。

また、活動に参加する人々が集い、語ることができる場所があることが望ましいと思われます。

☒ 「かがしま近代化産業遺産パートナーシップ会議」の組織・運営体制イメージ



総会

- 所有者、民間事業者等、市民団体、地方公共団体、研究機関からの代表者等で構成されます。
- 会議の方針、年間計画、予算・決算などの経営面での意思決定を行う機関です。

企画運営委員会

①行動計画の進捗確認機能

- 策定した行動計画がどのように進捗しているかを、各担当主体（市民団体、所有者、地方公共団体など）を集めて定期的に確認を行います（進捗確認会議（仮））。
- この会議では進捗の確認と共に、情報共有及び課題の解決に向けた改善案の議論なども、同時に行っていきます。
- なお、各担当主体はこの会議で出たアドバイスを参考に、自分達で進捗管理を行っていきます。

②情報共有・連携促進機能

- 進捗確認会議（仮）以外でも、適宜、情報共有や連携促進のための調整などを行っていきます。

③助成事業の運営機能

- かがしま近代化産業遺産協働行動計画の推進を図る諸活動への助成を行います。
- また助成に必要な資金調達についても行います（詳細は後述）。

④委託事業の運営機能

- かがしま近代化産業遺産協働行動計画の推進に係る、広報などに関して民間事業者への委託事業を行います。

⑤イベントの企画・開催機能

- 他団体などで行われるイベントを把握したうえで、必要なイベントについて企画、実施します。

事務局

- 企画運営委員会等の支援（委員会の開催支援やイベント開催支援など）を行います。



(参考) 助成事業向けの資金調達 (例)

助成事業向けの資金調達

かごしま近代化産業遺産協働行動計画の実施に向けた諸活動への助成を継続的に実施するためには、その活動資金を確保していくことが必要です。

そのため、市民・民間事業者・来訪者から広く協力を得て資金を調達する仕組みをつくりま

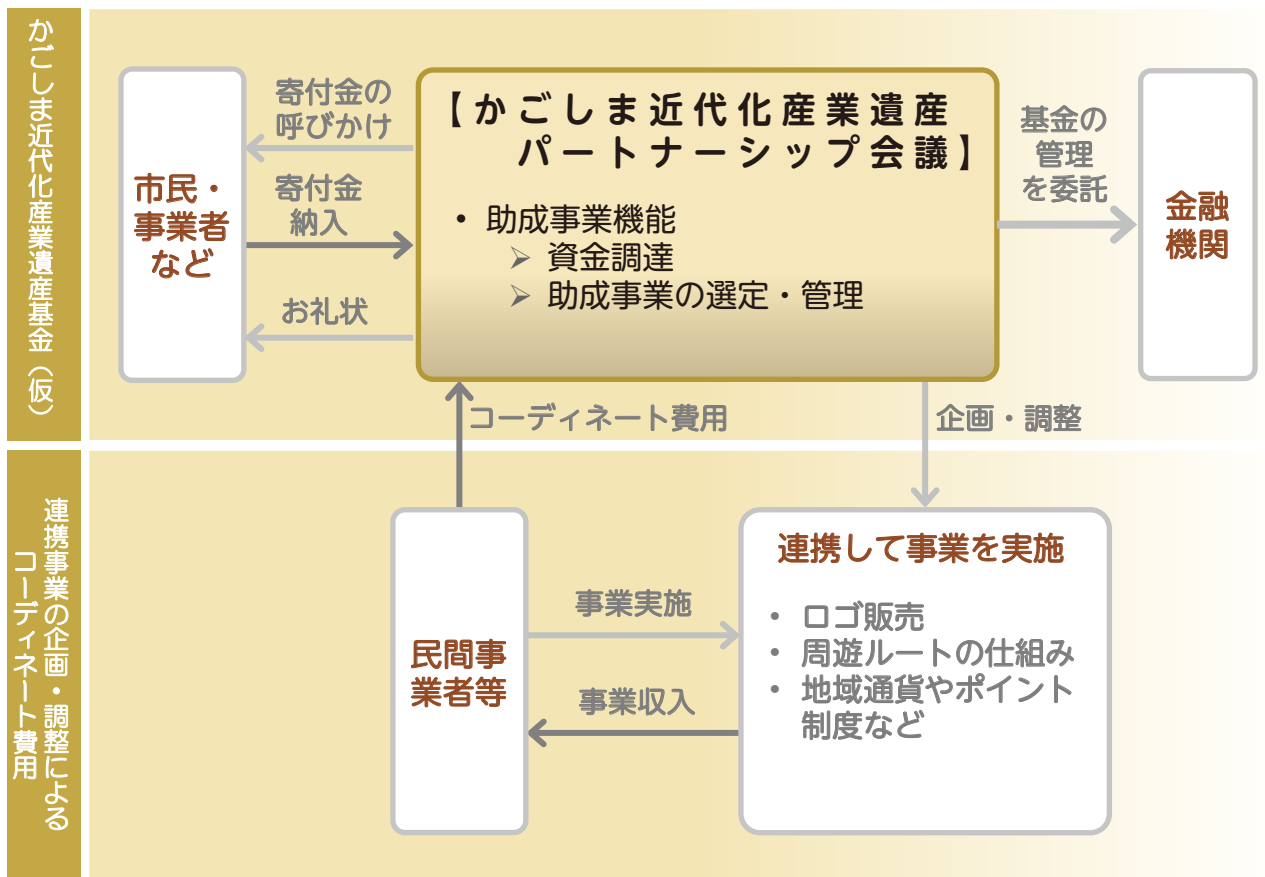
①かごしま近代化産業遺産基金 (仮)

- 県内外で募金活動を行い、民間寄付金を中心として基金を造成します。
- 基金の運用益で助成事業等を行います。

②連携事業の企画・調整によるコーディネート費用

- 行動会議が主体となって、官民等の連携事業の企画・調整を行い、その対価としてコーディネート費用を受け取ります。

☒ 資金調達イメージ



〔附属資料〕

行 動 リ ス ト

※この行動リストは、協働行動計画の「取組の方向性」を基に、かごしま近代化産業遺産パートナーシップ会議の各団体の自主的な取組を中心にまとめたものです。内容については検討中のものも含まれており、今後変更する可能性があります。

行動リスト

【1 学習・普及啓発(まなんど!)】

取組の基本的方向・内容	具体的な取組・活動		実施団体	スケジュール		
				登録前 (26年度)	登録目 標年度 (27年度)	登録後 (28年度 ~)
学校教育						
①産業遺産に関する学習の充実						
産業遺産に関する授業の促進	副読本等を活用した授業の実施	授業における副読本「かごしまタイムトラベル」等の活用	市教育委員会	→	→	→
		教職員や教育委員会等に対して当該副読本等の活用を依頼	鹿児島県、鹿児島市	→	→	→
	出前授業の実施	小学校等への出前授業	島津興業、上町維新まちづくりプロジェクト、パートナーシップ会議(学生等)	→	→	→
産業遺産に関する体験型学習の促進	現地での学習	現地での学校教育活動についての情報提供(遠足・スケッチ大会等の実施)	市教育委員会	→	→	→
	教育プログラムの検討	遺産を活用した教育プログラムの検討(「少年自然の家」における人材育成プログラムの検討等)	市教育委員会		→	→
②教職員への支援						
教職員向けの研修の充実	研修の充実	近代化産業遺産に関する教員向け研修の実施・充実	島津興業等	→	→	→
	研修の周知	近代化産業遺産に関する教職員向け研修の周知	市教育委員会	→	→	→
産業遺産に関する補助教材等の充実	補助教材の充実	補助教材の内容の検討(他の副読本等への掲載の検討等)	市教育委員会	→	→	→
	指導に関する参考資料の提供	指導の参考となる資料の提供等	各種団体	→	→	→
市民への普及啓発						
①市民の産業遺産の認知・理解の向上						
市民にわかりやすい広報の充実	広報紙等の活用	県政・市政広報媒体(広報誌、番組等)を活用した広報	鹿児島県、鹿児島市	→	→	→
		町内会広報誌を活用した広報	各町内会	→	→	→
	広報ツールの充実・活用	認知度を高めるための広報(ポスター、PRグッズ、ラッピング電車、啓発用DVD等)	鹿児島県、鹿児島市、パートナーシップ会議	→	→	→
		理解を深めるための広報(パンフレット、パネル等)	鹿児島県、鹿児島市、パートナーシップ会議	→	→	→
	効果的な広報ツールの検討	各種団体		→	→	

取組の基本的方向・内容	具体的な取組・活動		実施団体	スケジュール		
				登録前 (26年度)	登録目 標年度 (27年度)	登録後 (28年度 ～)
市民向けのわかりやすい講座等の開催	講座・勉強会の開催	生涯学習講座の開催	市教育委員会	→		→
		上町学舎の開催	上町タウンマネジメント	→		→
		遺産価値を伝えるセミナーやフォーラムの開催	かごしま探検の会	→		→
		例会における講演会等の実施	経済同友会	→		→
		食事や作成教室等の体験・体感型も織り交ぜた講座等の開催	島津興業	→		→
		産業遺産についての地域住民の学習活動	各町内会	→		→
		市政出前トーク等の地域に出向いての説明	鹿児島市	→		→
若年層や保護者向けの普及啓発の充実	若年層向けの普及啓発	成人式での広報	市教育委員会	→		→
		若い世代を対象とした普及啓発イベントの開催	パートナーシップ会議(学生等)	→		→
	保護者向けの普及啓発	保護者が参加する集会等を活用した普及啓発	各町内会	→		→
		保護者会等への「磯地区・集成館事業まち歩き」利用の働きかけ	鹿児島観光コンベンション協会、かごしままち歩きボランティアガイド	→		→
②さらなる市民の参画						
新たな活動の担い手の創出	市民から新たな担い手創出	世界遺産登録への取組や構成資産の価値等を広く周知する取組(登録後も含む)を実施(ガイドや語り部等の活用等)	各種団体	→		→
	若年層の担い手の創出	石橋記念公園「子どもガイド」勉強会の実施	石橋記念公園	→		→

【2 保存管理・調査研究(まもっど！)】

取組の基本的方向・内容	具体的な取組・活動	実施団体	スケジュール		
			登録前 (26年度)	登録目 標年度 (27年度)	登録後 (28年度 ～)
保存管理					
①産業遺産の保存管理					
遺産の保存管理	保存管理計画等に基づく遺産の保存管理	日常的な維持管理や補修	所有者、島津興業、市教育委員会	→	→
		定期的な経過観察	島津興業、市教育委員会	→	→
		遺産の価値を守るための修理	島津興業、市教育委員会	→	→
	遺産周辺の保護活動	遺産周辺の維持管理(例:疎水溝)	所有者、各町内会	→	→
保存管理に関する助言・協力	所有者・管理団体への助言・指導	遺産の保存管理に関する必要な指導・助言	県教育委員会	→	→
	保存管理への協力	遺産の状態の観察・連絡	各町内会	→	→
②良好な景観の形成					
磯地区景観計画に基づく景観形成	景観の形成	磯地区景観計画に基づく届出制度等の運用	鹿児島市	→	→
	景観形成への支援	景観形成重点地区における建造物の修景に関する支援の検討	鹿児島市	→	→
		魅力ある景観をつくる団体活動への支援	鹿児島市	→	→
③産業遺産周辺の環境の保全					
清掃・美化活動等の実施	清掃活動	清掃活動および活動支援	上町タウンマネジメント、かごしままち歩きボランティアガイド、各町内会、鹿児島市	→	→
	関係する資産の適切な管理	祇園之洲公園の定期清掃及び維持管理	鹿児島市	→	→
		石橋の清掃及び維持管理	石橋記念公園	→	→
来訪者へのマナーの周知	ごみ対策	ポイ捨て禁止等の啓発・指導	鹿児島市	→	→
	防犯対策	地域住民による防犯パトロール隊や青パト隊の結成促進、活動への支援	鹿児島市	→	→

取組の基本的方向・内容	具体的な取組・活動		実施団体	スケジュール		
				登録前 (26年度)	登録目 標年度 (27年度)	登録後 (28年度 ～)
調査研究						
①産業遺産に関する調査研究						
産業遺産の官民連携による研究	官民等による研究	官民等による近代化産業遺産に関する研究	各種団体			→
		計画的な発掘調査等の実施	各種団体			→
②調査研究の公表						
研究の紹介・情報共有	研究の紹介	紀要や解説図録の作成による調査研究の紹介	島津興業	→		→
成果の展示等の充実	成果の展示	発掘調査等の成果の博物館における展示・紹介	市教育委員会、島津興業			→
③研究への市民参加						
非公開資産の公開	非公開資産の公開	非公開資産の公開の検討	各種団体			→
市民による研究本の作成	研究本の充実	かんまち本(VOL2)に近代化遺産特集の項目を追加	上町維新まちづくりプロジェクト	→	→	
発掘調査等の現地説明会等の充実	現地説明会の充実	発掘調査における現地説明会の開催	市教育委員会、島津興業			→

【3 受入体制整備(むかゆっど!)】

取組の基本的方向・内容	具体的な取組・活動	実施団体	スケジュール		
			登録前 (26年度)	登録目 標年度 (27年度)	登録後 (28年度 ～)
受入環境の充実 ①施設・展示の充実					
産業遺産の理解を深める展示の充実	展示の充実	五感を活用した理解しやすい展示等(動態展示、当時の製造方法の体験、音や触感等を活用した展示等)			→
		世界遺産としての価値を紹介するコーナーの設置	島津興業、市教育委員会		→
施設の環境整備	環境の整備	異人館の観光客向けの環境整備	市教育委員会		→
②来訪者の誘導・案内					
産業遺産を紹介する案内機能の充実	案内機能の充実	観光案内所等での「近代化産業遺産」関連の各種印刷物の配布や案内	鹿児島市、鹿児島観光コンベンション協会		→
		世界遺産登録に対応した説明案内、受入体制の充実	各種団体		→
わかりやすい誘導標識・説明板等の整備	説明板等の整備	説明板・案内板等の整備	鹿児島市、市教育委員会		→
		遺産及び関係施設の案内標識の整備拡充	石橋記念公園		→
		遺産群紹介用の看板等サイネージの設置	島津興業		→
		構成資産に関する説明板・案内板等のデザインの検討	パートナーシップ会議	→	
	構成資産への誘導	構成資産の位置情報等を示す案内標識等について、関係機関との役割分担も含め設置に向けた検討、設置	鹿児島県、鹿児島市等		→
		遺産のカーナビ表示の検討・要請	鹿児島県、鹿児島市		→
駐車スペースの確保・便益施設の充実	駐車場等の確保	集成館地区史跡等整備活用検討委員会での駐車スペースの検討	市教育委員会		→
	便益施設の充実	集成館地区史跡等整備活用検討委員会での便益施設(トイレ等)の検討	市教育委員会		→
歩行環境の改善	来訪者の安全確保	来訪者等の安全確保のための対策	市教育委員会、島津興業		→
関連施設との連携	他の博物館等での案内	維新ふるさと館等と連携した案内	鹿児島市等		→
	駅等での案内	鹿児島中央駅総合観光案内所及び各駅での案内	九州旅客鉄道株式会社鹿児島支社、鹿児島観光コンベンション協会		→

取組の基本的方向・内容	具体的な取組・活動		実施団体	スケジュール		
				登録前 (26年度)	登録目 標年度 (27年度)	登録後 (28年度 ～)
③交通アクセスの改善						
磯地区への自動車流入の抑制	パークアンドライドの検討	鹿児島駅周辺や中心市街地の駐車場を活用したパークアンドライドの検討	鹿児島市	→		→
周遊バス等の公共交通アクセスの向上	公共交通のアクセス向上	パークアンドライドによる自動車流入抑制策とも連携しながら、公共交通のアクセス向上	鹿児島市	→		→
交通アクセス案内の充実	交通アクセス案内の充実	公共交通アクセスマップなど、交通案内の充実	鹿児島市	→		→
来訪者への対応						
①魅力的な周遊ルートづくり						
磯、寺山、関吉地区の周遊ルートづくり	周遊ルートづくり	「近代化産業遺産」関連のツアー商品の造成促進	鹿児島市	→		
		各地区のまち歩きマップの作成、交通手段等の情報提供	パートナーシップ会議	→		→
		遺産を巡る周遊コースのモデルルート設定、案内ガイドの育成	石橋記念公園	→		→
鹿児島中央駅～鹿児島駅～磯地区の回遊性の向上	地域の回遊性向上	各駅からのモデルルートの検討・PR	パートナーシップ会議	→		→
		観光ボランティアガイドによる産業遺産をめぐるまち歩きの実施	鹿児島観光コンベンション協会	→		→
		定期観光バスによる観光案内	市交通局	→		→
鹿児島の他の魅力の活用	鹿児島の魅力紹介	ガイドなどを通じた鹿児島の食などの魅力のPR	各種団体	→		→
県外の関連資産との連携	ツアー商品企画の働きかけ	県外・市内外の関連資産との周遊ツアー商品造成の働きかけ	鹿児島観光コンベンション協会、県観光連盟		→	
	県外の市民団体との交流	他の構成自治体の市民団体等との交流	各種団体	→		→
新たな手段(海など)による周遊ツアーづくり	クルーズ船の活用	「錦江湾魅力再発見クルーズ船」、「よりみちクルーズ船」での情報発信	鹿児島市、市船舶局、民間企業	→		→
②市民との交流促進						
来訪者と市民との交流の場づくり	交流の場の提供	公民館等を活用した観光客と住民との交流の場の検討	各町内会、パートナーシップ会議	→		→
③おもてなし						
「おもてなし」に関する勉強会等の開催	講座の開催	周辺店舗、観光関係者等を対象としたおもてなし講座の開催	パートナーシップ会議	→		→
		ボランティアガイドのおもてなし講座、歴史探訪に係るおもてなし(上町ならではの茶菓子、独自の探訪資料)	上町維新まちづくりプロジェクト	→		→

取組の基本的方向・内容	具体的な取組・活動		実施団体	スケジュール		
				登録前 (26年度)	登録目 標年度 (27年度)	登録後 (28年度 ～)
④ガイドの充実と連携						
新たなガイドの育成 やガイド内容の向上	ガイドの育成・ 内容の向上	ガイド力向上のための学習会・現地研修の実施	かごしままち歩きボランティアガイド	→	→	→
		地域の伝統的行事や風俗習慣等について、ガイドへ情報提供(地域に長年住むお年寄りによる語り会の開催等)	各町内会		→	→
		上町界隈の歴史と近代化遺産とのつながりについての講座・勉強会の開催	上町維新まちづくりプロジェクト	→	→	
		育成した語り部の活用	鹿児島県	→	→	→
		ガイド向けナレーションの執筆作成・配付	島津興業	→	→	→
外国人観光客への 対応	ガイドの育成 案内・説明の 充実	外国人向けガイドの育成	各種団体	→	→	→
		外国人向けウエルカムキュートチケット(一日乗車券・施設割引券)へ「世界文化遺産」関連施設であることを表記	鹿児島市			→
		外国語表記のパンフレット、案内看板の作成	各種団体	→	→	→
		外国人案内用の説明ボード、指差し会話カード等の作成	各種団体		→	→
各ガイドの連携	各ガイド間の 交流 各ガイドの役 割分担	ガイド研修による各団体間の交流	かごしままち歩きボランティアガイド	→	→	→
		世界遺産ガイドの育成と連携、他ガイドとの役割分担	かごしま探検の会、かごしままち歩きボランティアガイド	→	→	→

【4 活用・地域活性化(もりあぐっど!)】

取組の基本的方向・内容	具体的な取組・活動		実施団体	スケジュール		
				登録前 (26年度)	登録目 標年度 (27年度)	登録後 (28年度 ～)
①先人たちの挑戦に学ぶ新たなビジネス開発、経営・教育面での活用						
集成館事業における挑戦・視点等を現代のビジネスに生かす取組	新商品の開発支援	新商品化等のヒントとして様々な業種への集成館事業の紹介(同事業の普及啓発も含む)	鹿児島市、島津興業	→	→	→
		新製品の開発(試作品等製作)・販路開拓等へ支援	鹿児島市	→	→	→
集成館事業の経営手法等の、現代の企業経営への活用を研究	手法活用の研究	現在の企業や学校での教育手法への活用について研究	かごしま探検の会等			→
②特産品の充実						
産業遺産をテーマとした商品開発	商品の開発	遺産をテーマとした商品開発	民間企業		→	→
		遺産群のストーリーをもとにした仙巖園とのコラボ商品の開発(食事セットや商品等)	島津興業	→	→	→
	商品開発の支援	遺産をテーマにした商品開発(試作品等製作)や販路開拓の支援	鹿児島市	→	→	→
		商品開発等の際にデザイン面による支援	鹿児島市	→	→	→
地元土産品や生産品の魅力向上	土産品等の魅力向上	グッズ・土産物の充実	民間企業	→	→	→
		遺産関連商品のコンセプトやデザイン等の検討	各種団体		→	→
		各種コンクールとの連携	各種団体		→	→
③関連イベントの充実						
遺産に関するイベントの開催	遺産に関するイベントの開催	遺産を活用したイベントの開催(コンサート等)	パートナーシップ会議、市教育委員会	→	→	→
		遺産を巡るウォーキングイベントの開催(鹿児島駅周辺さるつきんぐ、JR九州ウォーキング等)	かごしま探検の会、九州旅客鉄道株式会社鹿児島支社、上町維新まちづくりプロジェクト、上町タウンマネジメント	→	→	→
		会員向けの座談会や地元町内会・通り会との親睦会の開催	上町維新まちづくりプロジェクト		→	
		上町界隈の歴史探訪	上町維新まちづくりプロジェクト	→	→	→

取組の基本的方向・内容	具体的な取組・活動	実施団体	スケジュール		
			登録前 (26年度)	登録目 標年度 (27年度)	登録後 (28年度 ～)
歴史や文化等の関連する事業や、遺産のエリア周辺で行われる各種イベントと連携した取組	歴史・文化等の事業・イベントとの連携	「明治維新150年カウントダウン事業」等との連携 (世界文化遺産という視点も含めたイベント等の開催)			→
		市民向けの参加しやすいイベントや勉強会との連携(歴史探検会等)			→
		第4回上町検定へ向けての取組との連携	→		
		～薩摩の史と景～薩摩文化の祭典IN石橋記念公園の開催(11月)との連携			→
	他の事業・イベントとの連携	「桜島・錦江湾ジオパーク」と連携した催しや情報発信等の実施			→
		花見など町内会の行事等の活用			→
		自然観察会、生きもの観察会との連携			→

【5 情報発信(つたゆっど!)】

取組の基本的方向・内容	具体的な取組・活動		実施団体	スケジュール		
				登録前 (26年度)	登録目 標年度 (27年度)	登録後 (28年度 ～)
①産業遺産についての効果的な情報発信						
産業遺産に関する情報サイトの充実	ホームページの活用	各ホームページによるPR、内容の充実	各種団体	→	→	→
多様な情報発信ツールの活用	SNS活用による情報発信	フェイスブックを活用した遺産関連の情報発信	各種団体	→	→	→
		ユーチューブを活用した遺産の説明・PR映像等の配信	パートナーシップ会議(学生など)	→	→	
	メールマガジンの活用	遺産関連の情報をメールマガジンで観光サポーターへ配信	鹿児島市	→	→	→
	観光印刷物の活用	ガイドブック等への遺産関連の情報掲載	鹿児島市	→	→	→
		「明治日本の産業革命遺産」を紹介するパンフレット等の作成・配布	各種団体	→	→	→
	地域広報の充実	上町カレンダーの作成	上町タウンマネジメント	→	→	→
	県人会等へのPR	県人会等へのパンフレット等の配布	各種団体	→	→	→
	マスコミの活用	マスコミを活用した情報発信	各種団体	→	→	→
観光プロモーションの推進	PR活動	国内外向けの観光プロモーション等を活用した広報宣伝	鹿児島市	→	→	→
		明治維新150年“維新のふるさと鹿児島市”PR事業を活用した情報発信	鹿児島市	→	→	→
		年間を通じて県外各地で行う観光PRイベントを通じた情報発信	鹿児島島観光コンベンション協会	→	→	→
市外、県外の産業遺産と連携した情報発信	情報発信における連携	県外ガイド団体等と連携した情報発信	かごしま探検の会	→	→	→
②産業遺産を訪れたい双方の情報発信						
市民、来訪者が情報発信者となるような仕組みの構築	イベントの開催	来訪者等が情報発信の主体となるようなSNSを活用したイベント等の開催	パートナーシップ会議(学生など)		→	→
	情報発信者の研修	協会の賛助会員及び観光ボランティアガイドを対象とした講演会・研修会の実施	鹿児島島観光コンベンション協会	→	→	→
	双方向の情報交換の場の提供	遺産を訪れたい双方の情報発信の場(カフェ、休憩所等)の提供	各種団体			→



(参考)ワーキンググループなどで出されたアイデア例

学習・普及啓発（まなんど！）

学校教育

- 体験型学習の例として、「寺山炭窯跡を目指す白銀坂親子トレッキング」をガイド付きで行う。
- サマーキャンプで寺山炭窯跡と関連した炭焼き体験を行う。
- 高校の演劇部等とコラボし、小学生への出前授業を行う。

市民への普及啓発

- 「近代化産業遺産が域内にあること」について全市民に知ってもらうため、ロゴマークや一言キャッチフレーズ「例：仙巖園の場所は、昔日本初の洋式工場群だった」を、レジ袋などに印刷し市民に浸透させる。
- 近代化産業遺産に触れていない市民に対するきっかけを誘発するようなイベントとして、例えば「季節に応じた定期的なイベント（例：村祭りの鎮守、コンサート）」、「異人館で仮装大会（当時の衣装を着てもらい銀板写真風に記念写真を撮る）」、「Mr.齊彬コンテスト（優勝者には齊彬になりきって、ガイドをしてもらう）」などを行う。
- 「磯地区・集成館事業まち歩き」への市民参加促進のため、「教職者や官・民諸職域の職員・社員研修会」、「PTA・婦人学級・地域婦人会等、婦人向けの学習会」、「教師と生徒、親と子等の学習会」などへの利用を働きかける。

保存管理・調査研究（まもっど！）

保存管理

- 磯地区などで、市民参加の清掃イベントを行う。
- 市民との協働により桜の名所（桜谷）を復元する。
- 磯地区での景観スケッチ大会、フォトコンテストなどを開催する。
- 桜島・錦江湾ジオパークと連携した自然環境保全の啓発活動を行う。

調査研究

- 考古学的調査研究のうち、出土地点の記録、実測等の発掘調査作業や、出土品の水洗いなどの整理作業などに市民に参加してもらう。
- 日本の近代化に大きく貢献したことを説明するため、人や技術の交流によって、日本全国にどのように波及したのか図説する。

受入体制整備（むかゆっど！）

受入環境の充実

- どのように大砲を製造したのかなど動態展示を行う。
- 近代化産業遺産の時代（幕末）が感じられる歴史の街を作る。
- 幕末から明治にかけての近代化の雰囲気伝わる仕掛けとして、石橋公園から鹿児島駅のエリアでガス灯風の街灯を設置する。
- バスの行先や乗り場がわかりやすいような工夫をする。
- ITを活用した遺構の復元（ARアプリなど）を行う。

来訪者への対応

- 新たな手段による周遊ルートとして、「市電やバス、フェリーでの近代化産業遺産の解説」や、「帆船などを利用した海からのアクセス」を検討する。
- ガイド内容の向上を目的として、ガイドの競技大会を行う。
- 磯地区・異人館（集成館以外）の専門のガイドを育成する。
- 大学の留学生などによる外国人向けガイドを実施する。

活用・地域活性化（もりあぐっど！）

- 詮議の手法を活用した、教育現場での生徒同士の議論の授業を実施する。
- 反射炉などに関連付けて、鉄製品（くぎかくしなど）を、実際に磯地区で製作を実演しながら販売する。
- グッズ・土産物の購入が促進される仕組みとして、「薩摩藩の藩札をデザインした商品券」を販売する。
- 薩摩の先人達の偉業のうち、特筆すべきものいくつかをピックアップし、その成功の要因を顕彰し、簡潔にまとめて資料とする。
- 商品開発コンテストなどを通じて、今まで近代化産業遺産にあまり興味がなかった市民の興味を引きつける。
- 商店街・漁業・農協など、今まで近代化産業遺産と積極的に関与していなかった団体等とコラボして商品開発を行う。
- 本近代化産業遺産群に関連した商品開発をする際の、共通コンセプトなどをきちんと決めておく。

情報発信（つたゆっど！）

- 「様々な情報媒体の活用」の一環として、携帯アプリを使った情報発信コンテストを開催し、優勝アイデアを実際に実施する。
- 公式WEBサイトに口コミ欄をつくり、実際に訪れた人による感想、見どころなどを誰でも見られるようにする。
- 来客キャンペーンとして、他の世界遺産候補資産と連携し、「明治日本の産業革命遺産九州・山口と関連地域」スタンプラリーを開催する。
- 市民や来訪者が情報発信の主体となれるよう、かごしまの産業遺産フォトコンテストを実施し、一般投票によって優秀作品を決定する。
- また、SNSプレゼントキャンペーン（フェイスブックでイイネ！をしてくれた人に抽選でプレゼント）を実施し、公式サイトへの誘導を図るとともに、市民や来訪者に情報発信の主体となってもらおう。
- WEBカメラによる遺産（寺山、関吉など）のライブ中継を行う。
- 今から世界遺産登録までの市民等の活動を、動画などでリアルタイムに日本、世界へ発信していく。

資料編



計画の策定経過

会議	開催日	内容
第1回かごしま近代化産業遺産パートナーシップ会議	平成25年 7月31日	<ul style="list-style-type: none"> ○かごしま近代化産業遺産パートナーシップ会議の発足 ○世界文化遺産登録の取組状況について ○「かごしま近代化産業遺産協働行動計画（仮称）」について ○近代化産業遺産等を活かした「ありたい地域の姿」についてなど
関係者・有識者ヒアリング（8月～9月）		
第1回ワーキンググループ	8月8日	<ul style="list-style-type: none"> ○ありたい地域の姿について ○ありたい地域の姿を踏まえた活動案の検討など
先進地視察：石見銀山（8月28日～29日）		
第2回ワーキンググループ	10月2日	<ul style="list-style-type: none"> ○試行イベントについて
第2回かごしま近代化産業遺産パートナーシップ会議	10月23日	<ul style="list-style-type: none"> ○ありたい地域の姿、現状・課題と対応策案について ○試行イベントの開催（案）についてなど
試行イベント	11月29日	目指せ磯地区バスモニターツアー ①海洋国家と産業遺産コース
	11月30日	目指せ磯地区バスモニターツアー ②島津氏の歴史と産業遺産コース
	12月14日	親子で挑戦！つくろう殿様の望遠鏡
第3回かごしま近代化産業遺産パートナーシップ会議	12月18日	<ul style="list-style-type: none"> ○試行イベントの結果報告について ○協働行動計画の素案について ○行動リストについてなど
「かごしま近代化産業遺産協働行動計画（仮称）」素案への意見募集 （平成25年12月27日～平成26年1月31日）		
第3回ワーキンググループ	平成26年 1月28日	<ul style="list-style-type: none"> ○行動リストについて
第4回かごしま近代化産業遺産パートナーシップ会議・講演会	2月18日	<ul style="list-style-type: none"> ○講演会（北海道大学観光学高等研究センター 西山徳明教授） ○意見募集結果について ○協働行動計画（案）について ○行動リストについて ○今後の進め方についてなど



会議風景

●第1回パートナーシップ会議（平成25年7月31日）



●第2回パートナーシップ会議（10月23日）



●第1回ワーキンググループ（8月8日）



●第2回ワーキンググループ（10月2日）



●第3回パートナーシップ会議（12月18日）



●第3回ワーキンググループ （平成26年1月29日）



●第4回パートナーシップ会議・講演会 （2月18日）





試行イベント「目指せ世界文化遺産磯地区バスモニターツアー」

明治日本の産業革命遺産 九州・山口と関連地域 世界文化遺産国内推薦決定！
目指せ 世界文化遺産
 磯地区バスモニターツアー

この7月に「明治日本の産業革命遺産 九州・山口と関連地域」が世界文化遺産への国内推薦審議に決定されました。
 この遺産は、西洋以外の地域を初めて、かつ、極めて短期間に設計を成し上げた日本の偉業を誇りにしています。是非に貴重なもので、是非1回だけでも見ていただきたいです。
 鹿児島県では鹿児島市の「国造館」(中山公園内)、歴史の跡を辿るための「薩摩藩陣地土庫」(現・赤松集積場)、「国造館の跡」(現・真人館)の3つの施設を順番に見学いたします。
 今回は、磯地区の歴史と、市内にある関連の史跡バスでご案内いたします。是非ご参加ください。

①海洋国家と産業遺産コース 2013年11月29日(金) 13:00～17:30
 ②島津氏の歴史と産業遺産コース 11月30日(土) 9:00～16:00

●コース概要
 ①鹿児島中央駅～鹿児島駅～新国分寺台跡～磯地区
 ②鹿児島中央駅～鹿児島駅～福徳神社～福島寺跡～磯地区(仙臺園・赤松集積場・真人館)
 いずれも、コースの順番は、磯地区各施設のバスは随時乗り換えは承れません。ご了承ください。
 ※今回はモニターツアーのため、ご参加の方は随時バスチケットをお返しいたします。ご協力をお願いします。

●参加費 ①200円
 ②1000円(仙臺園内説明料の含まれた)

●定員 ①②それぞれ24名 【対象：小学生以上(小学生は保護者同伴)】
 (お申し込みの時から抽選の上、当選者11月20日(木)までに決定・ご連絡します)

●申込み (1)ご住所(2)電話番号(3)お名前(4)応募者それぞれの年齢と、(5)①②どちらかの希望するコースをお書きの上、お葉書・FAX・メールのいずれかでお申込みください。
 (お申込みと一緒に必ずお名前とご連絡先を必ずお書きください。必ずお名前とお住所を必ずお書きください。)

●申込み締切 いずれも11月16日(土)必着

●連絡先 鹿児島「目指せ世界文化遺産・磯地区バスモニターツアー」宛て
 FAX 099-295-3133
 メール info@kankemokai.com
 住所 〒892-0817 鹿児島市山崎3丁目 NPO 法人かごしま探検の会
 電話 099-327-5343 電話受付は9時から、受付終了は18時までの予定です。

●バスツアー1日目(11月29日) 「海洋国家と産業遺産」



●バスモニターツアー2日目 「島津氏の歴史と産業遺産コース」



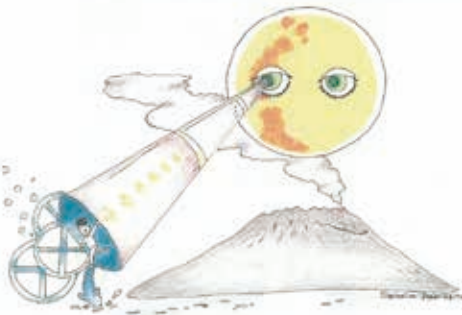


試行イベント「親子で挑戦！つくろう殿様の望遠鏡」

**親子で挑戦！
つくろう殿様の望遠鏡**

約 250 年前の蘭学のお師範が持っていた「紙」の望遠鏡を作ってみよう

「明治日本の産業革命遺産 九州・山口と関連地域」
世界文化遺産 国内推薦決定
かごしま近代化産業遺産パートナーシップ公認試行イベント



この9月に「明治日本の産業革命遺産 九州・山口と関連地域」が世界文化遺産への国内推薦案件と決定されました。
この遺産は、西洋列国の侵略と拒めて、かつ、極めて短期間に近代化を成し上げた日本の姿を語り継いでいくと、著実に貴重なものという評価を受け、8月11日の28画報で掲載されています。
鹿児島県では鹿児島市の「蘭館跡」（古川の交差点、蘭館の遺構を復元中）、「蘭館跡 蘭館跡土蔵（現・福吉車庫跡）」、「蘭館跡 福吉神社跡（現・無人館）」の3つの蘭館跡を巡りながら、近代化産業遺産とは？、また、蘭館跡の近代化の歴史をつつと語り継ぐ25「近代化遺産」について学び、産業遺産の「蘭館」の望遠鏡を工作し、当時の技術力の高さを鑑賞いただくイベントです。
※、このイベントは、かごしま近代化産業遺産パートナーシップ協議などに参加した大学生と、青年社会人とが中心として「対等型」が企画・実施するイベントです。

開催日 平成25年12月14日（土）
時間 16:15～18:00（予定）
対象 各県 幼稚園
参加費 大人600円 小学生300円（本館見学無料）
定員 親子10組程度（5歳～小学生のお子様のみ）
申込 (1) 参加者全員の氏名 (2) 参加者それぞれの年齢 (3) 制作したい望遠鏡の数量 (4) ご住所 (5) お電話番号 (6) メールアドレス
をご記入の上、メール・FAXのいずれ方でも申し込めください。
申込締切 平成25年12月5日（金）
問い合わせ メール…road.to.heritage.2015@mail.com
FAX…099（216）1108
「親子で挑戦！つくろう蘭館の望遠鏡」係
かごしま近代化産業遺産パートナーシップ協議・若手会
鹿児島市教育委員会 企画課 内 099-216-1108

●学生等による企画実施イベント





かごしま近代化産業遺産パートナーシップ会議 会則

(設置)

第1条 近代化産業遺産を次世代へと適切に保存し伝えていくとともに、地域活性化を図るために、地域住民、NPO、事業者や関係機関等が連携した協働の取組を進めるための実践的なプログラムとなる「かごしま近代化産業遺産協働行動計画（仮称）」の策定及び推進を目的として、かごしま近代化産業遺産パートナーシップ会議（以下「パートナーシップ会議」とします。）を設置します。

(役割)

第2条 パートナーシップ会議は、前条の設置の目的を達成するため、次の役割を担います。

- (1) かごしま近代化産業遺産協働行動計画（仮称）の策定・見直しを行います。
- (2) かごしま近代化産業遺産協働行動計画（仮称）を推進する活動を行います。
- (3) その他第1条の設置の目的を達成するために必要な活動を行います。

(組織)

第3条 パートナーシップ会議は、町内会、市民団体、NPO、ガイド団体、所有者、行政や関係機関等の団体により組織し、会議の委員は、各団体の代表者や推薦を受けた者をもって充てます。

- 2 パートナーシップ会議に会長及び副会長各1人を置き、委員の互選によってこれを定めます。
- 3 会長はパートナーシップ会議を総括します。

(会議)

第4条 パートナーシップ会議の会議は、会長が招集します。

- 2 会長は、会議の議長となり、議事を整理します。ただし、会長が出席できないときは、副会長がその職務を代理します。
- 3 パートナーシップ会議は、必要に応じて委員以外の者の出席を求め、意見を聴くことができます。

(ワーキンググループ)

第5条 パートナーシップ会議は、第2条の役割を補助させるため、必要に応じてワーキンググループを設置することができます。

(事務局)

第6条 パートナーシップ会議の事務を処理するため、事務局を置き、事務局は鹿児島市企画財政局企画部政策企画課とします。

(その他)

第7条 この会則に定めるもののほか、パートナーシップ会議の運営に関し必要な事項は、会長が別に定めます。

附 則

この会則は、平成25年7月31日から施行します。



策定メンバー（平成26年3月）

区分	構成団体・学校名	所属・学部	役職・学科	氏名
地域・まちづくり団体	磯町内会		会長	折田 雄一
	吉野町東菖蒲谷町内会		会長	内村 稔
	下田町内会		会長	米元 勝男
	上町タウンマネジメント		代表幹事	内村 文泰 ●会長
	上町維新まちづくりプロジェクト		代表	春山 亮
	NPO法人まちづくり地域フォーラム・かごしま探検の会		代表理事	東川 隆太郎
	かごしままち歩きボランティアガイド	近代化遺産を歩く（8コース）	コースリーダー	中原 正二
	観光電車サポートガイド			富吉 郷太
学 生	鹿児島大学	工学部	建築学科4年	岡田 帆奈
		理工学研究科博士課程	システム情報科学専攻3年	アニス ウルレーマン
	鹿児島国際大学	経済学部	経営学科地域創生専攻2年	中村 優太
	志學館大学	人間関係学部	人間文化学科歴史地理コース2年	下豊留 佳奈
所有者・管理者	(株)島津興業	取締役兼尚古集成館長		田村 省三
観光・経済関係団体	公益財団法人鹿児島観光コンベンション協会	事務局	事務局長	野元 隆男
	公益社団法人鹿児島県観光連盟	事務局	事務局長	東 清貴
	鹿児島経済同友会	事務局	事務局長	浦底 康助
	九州旅客鉄道(株)	鹿児島支社	副支社長	川畑 清志
	石橋記念館		館長	菅井 寛
行 政	鹿児島県	企画部世界文化遺産課	課長	田中 完
		教育庁文化財課	課長	宇都 法道
	鹿児島市	企画財政局企画部	部長	久保 英司 ○副会長
		経済局観光交流部	部長	山口 順一
		建設局都市計画部	部長	森重 彰彦
		教育委員会管理部	部長	秋野 博臣

かごしま近代化産業遺産協働行動計画（平成26年3月）

作成：かごしま近代化産業遺産パートナーシップ会議

事務局：鹿児島市 政策企画課

協力：株式会社 三菱総合研究所

発行：鹿児島市

〒892-8677 鹿児島市山下町11-1 TEL 099-216-1106